

## ◎プロスタール錠・△L錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 クロルマジノン酢酸エステル chlormadinone acetate 【分類】 前立腺肥大症・前立腺癌治療剤

【単位】 ◎25mg/錠, △50mg/L錠

【常用量】 ■前立腺肥大：50mg/日 ■前立腺癌：100mg/日

【用法】 ■分2・食後 ■L錠：分1・食後 [L錠は前立腺肥大症にのみ適用]

【透析患者への投与方法】 減量の必要はないと思われる (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 減量の必要はないと思われる (5)

【特徴】 抗アンドロゲン剤で黄体ホルモン作用を有し、卵胞ホルモン作用は認められない。前立腺肥大結節はアンドロゲンに強く依存しているため、アンドロゲン発現機作を阻害することで前立腺肥大結節を抑制・萎縮できる。早くて1週間後、遅くとも4週間後には排尿困難の改善を示す。1日量25mgでは前立腺肥大結節への直接作用、100mgで間脳・下垂体・性腺系を介して萎縮作用を示す。

【主な副作用・毒性】 血栓症、CHF、劇症肝炎、肝機能障害、糖尿病の悪化、発疹、性欲低下、BUN上昇、Cre上昇、貧血、頭痛、消化器症状、頻尿、TG上昇、女性化乳房、脱毛、倦怠感、微熱など

【安全性に関する情報】 重篤な肝障害発現の可能性があり、投与開始後3か月までは少なくとも1か月に1回、それ以降も定期的に肝機能検査を行う (1)

【吸収】 食事によりAUCが1.5~1.8倍に上昇 (1)

【F】 資料なし (1)

【tmax】 3~4hr (1) ■L錠 5hr (1)

【代謝】 肝代謝される (1) 腸肝循環を受ける (1) 尿中回収物として、未変化体の他に、2 $\alpha$ -3 $\alpha$ -ジヒドロキシ体、3 $\beta$ -ヒドロキシ体が同定 (1) 3 $\beta$ -ヒドロキシ体は未変化体の70%の活性あり (1)

【排泄】 尿中回収率11%で[po, 72hrまで] (1) 尿中未変化体排泄率0.14~0.2% [po, 24hrまで] (1) 尿中回収率45%、糞便中回収率42% (Terlinden R, et al: Contraception 74: 239-44, 2006 PMID: 16904418)

【t1/2】 7~8hr (1) 3 $\beta$ -ヒドロキシ体 6hr (1) 反復投与時36~39hr (Terlinden R, et al: Contraception 74: 239-44, 2006 PMID: 16904418) ■L錠 10hr (1)

【蛋白結合率】 99% (1)

【Vd】 組織移行性が高く、大きいと思われる (5)

【MW】 404.93

【透析性】 透析されない (5) 資料なし (1)

【TDMのポイント】 TDMの対象にならない 【O/W係数】 資料なし (1)

【備考】 前立腺肥大症に用いる場合はその投与期間は16週間を基準とし以後漫然と投与を継続しない。

【更新日】 20180414

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。